

めでいかすどる
Médicastre



「六地藏」

鶴岡地区医師会

21年 8月号

日時：平成21年7月23日(木)

場所：東京第一ホテル鶴岡

「呼吸器感染症に対する経口抗菌剤の適正使用

—ニューキノロン薬を中心に—

信楽園病院呼吸器内科部長

青木 信樹 先生

呼吸器市中感染症の主たる原因微生物は肺炎球菌、インフルエンザ菌、肺炎マイコプラズマ、肺炎クラミジアであり、そのうち肺炎球菌、インフルエンザ菌の耐性株は経口第3世代セフェム薬が登場した1990年頃から漸増し、PRSPは50~60%、BLNARは35%程度に、マクロライド耐性肺炎球菌は80%に及ぶ高率な検出頻度となっている。さらに2000年以降、マクロライド耐性マイコプラズマも徐々に増加してきており、20%~30%とも報告されている。このように、主要な原因微生物の耐性化が進んできていることが大きな問題となっている。しかしながら、我が国においては経口の低容量第3世代セフェム薬、マクロライド薬が頻用されており、さらに耐性菌増加を助長する可能性が大であると言わざるをえないのが現状である。

日本呼吸器学会の市中肺炎のガイドラインではエンピリック治療で細菌性肺炎が疑われる場合は高用量のペニシリン薬が第一選択薬であるが、基礎に慢性の呼吸器疾患を有するか、ペニシリンアレルギーのある症例など、非定型肺炎が疑われた場合で、高齢者、慢性心・呼吸器疾患を有する症例などではレスピラトリーキノロン薬が推奨薬となっている。

近年、抗菌薬の開発はPK/PD理論に基づいてなされてきている。今回は呼吸器感染症に対する経口抗菌薬の適正使用について、臓器移行性を含めたPK/PD、服薬コンプライアンス、耐性菌発現抑制などを考慮してニューキノロン薬を中心に述べてみたい。

日時：平成 21 年 7 月 25 日(土)
場所：介護老人保健施設みずばしょう

みずばしょう夏祭り

平成 21 年 7 月 25 日 (土)、「第 5 回 みずばしょう夏祭り」が開催されました。今回は、あいにくの空模様となり、前日の朝からテント集めに奔走しました。当日は 12 個のテントを張り、途中小雨は降りましたが、なんとか外で開催することが出来ました。

午後 6 時から、開会の挨拶で始まり、柏樹会の踊り、羽黒地区の子供達による羽黒太鼓、「群青」によるよさこいソーラン踊り、鼠ヶ関弁天太鼓、当施設利用者さんによるカラオケも披露していただきました。

屋台では、焼きそば、焼き鳥、フランクフルト、おにぎり、カキ氷、枝豆、とうもろこし、ラーメン、煮込み、ビール、ジュース等販売し、とても好評のようでした。

最後は、みずばしょう夏祭り恒例となりました、花火が盛大に打ち上げられました。第 1 回の夏祭りでは、職員が屋上で手持ち花火をしていたとのことでしたが、医師会会員の先生方、職員の皆様、事業所の皆様の協賛をいただき、年を重ねるごとにスケールアップし、第 5 回の今年は 147 発の華やかな花火を打ち上げることが出来ました。改めて御礼申し上げます。

また、医師会の他施設の職員の皆様には、夏祭りのお手伝いをいただき、誠にありがとうございました。さらに、羽黒地域の住民の皆様からは夏の恒例行事として楽しみにしていただき、大勢の方々が参加され、毎年何かとご協力いただいております。

中目先生から、閉会のご挨拶いただき、大盛況のうちに終了することが出来ました。

参加、支援していただいた皆様より多くのパワーをいただき、かけがえのない空気と時間を共有させていただいた事に感謝いたします。

介護老人保健施設 みずばしょう
事務長 阿部圭子



納涼ビアパーティー

日時：平成 21 年 7 月 31 日
場所：グランドエル サン

みずばしょう夏祭りの興奮冷めやらぬ 7 月 31 日（金）、恒例の鶴岡地区医師会納涼ビアパーティーがグランドエルサンにて開催されました。今年のテーマは「マリンリゾート」。中村秀幸先生の開会挨拶、中目千之先生の会長挨拶、福原晶子先生の乾杯で宴が始まりました。

新入職員 3 組による余興、大抽選会が行われ、最後は毎年恒例となりました役員による「サライ」の合唱で会場は大いに盛り上がりました。

最後に伊藤末志先生より閉会挨拶をいただき、今年度のビアパーティーは終了しました。

参加総数は 286 名で、普段触れ合うことの少ない会員の先生方や、また違う事業場で働く職員との交流を深めつつ、楽しい夏のひと時を過ごすことができたとすれば、実行委員一同大変うれしく思います。

実行委員長 佐藤洋介





初めてのビアパーティーは、余興がうまくいくかどうか、みんなに楽しんでもらえるだろうかという不安な気持ちから始まりました。

出番が近づくと緊張が高まり、ステージに向かって入場する時には目の前が真っ白な状態に…。しかし、いざステージに立ち音楽がかかると、自然と体が動き、応援してくれる方達も沢山いて、楽しく踊ることができました。

またこの余興を通して、他の施設の新人職員の方達と交流を深めることができ、本当に良かったと思います。

最後に、実行委員の皆さま本当にお疲れ様でした。
楽しい時間をありがとうございました。

荘内地区健康管理センター 検査課 須藤瑠那

マイペット&マイホビー

—第 58 回—

デジタルカメラを携えて

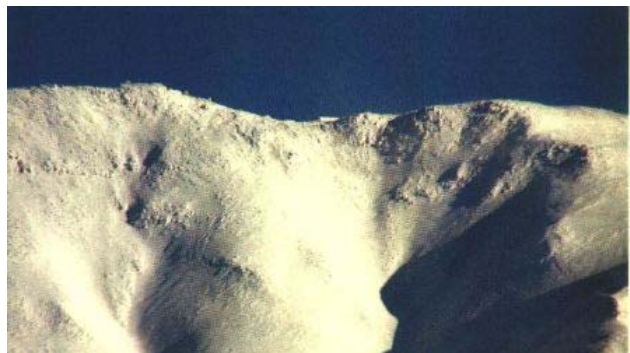
三 浦 二三夫

私の趣味はと尋ねられたら現在は何と答えていいのだろうか。過去だったら先ず釣り、スキー、テニス、野球、ゴルフなどと臆面もなく答えていただろう。80年代の頃「サントリー夢大賞」という企画があり応募したことがありました。初夏の1日の遊びのフルメニューで朝の5時半から夜の8時半までアウトドアでの遊び企画である。早朝の溪流釣りから始まり午前中は月山夏スキー、午後ゴルフ18ホール、そしてナイター野球という提案でした。採用はされませんでした、可能なことと考えていました。結局、自分で実行したのは11月下旬の午前中湯殿山スキー場で初滑り、午後湯の浜カントリーでのゴルフプレーということだけでした。スキーも長い趣味でしたが用具も古くなり最近では買い換える意欲もなくなり、ご無沙汰しています。従って現在の趣味はと聞かれた時、その答えは溪流釣り、ゴルフ、写真となります。カメラ歴は長いのですが打ち込み方は浅いものでした。ただ高校の頃、山の写真を撮っては兄の現像機を引っ張り出して、山仲間と夜遅くまで焼付け、現像、定着、乾燥と自前の写真作りをした覚えがあります。その頃はカラーは高価なものでして自前のプリントは当然モノクロでした。

2000年を境にカメラはフィルム式からデジタルカメラへと急激に移り変わり、その性能は急速に進歩し、一方価格は驚くほど手ごろになってきました。ということで私も2003頃よりデジタルカメラ族となってしまいました。フィルム式の時はパソコン、スキャナー&プリンタでしたが、それがパソコン&プリンタまたはデジカメ&プリンタという流れで楽しめるというのも魅力でした。プリンタの解像度の進歩や染料系に続いて、顔料系のプリンタも出現しました。プリントサイズもA4からA3ノビという大きなサイズのものも普及しています。211万画素3倍ズームから始まり現在では1200万画素26倍ズームというデジカメを愛用しています。これに1.7倍のテレコンバータを使えばなんと34.2倍の光学ズームとなるのです。月山頂上の神社とその横のバイオトイレの建物がプリント上で見る事が出来るのです。



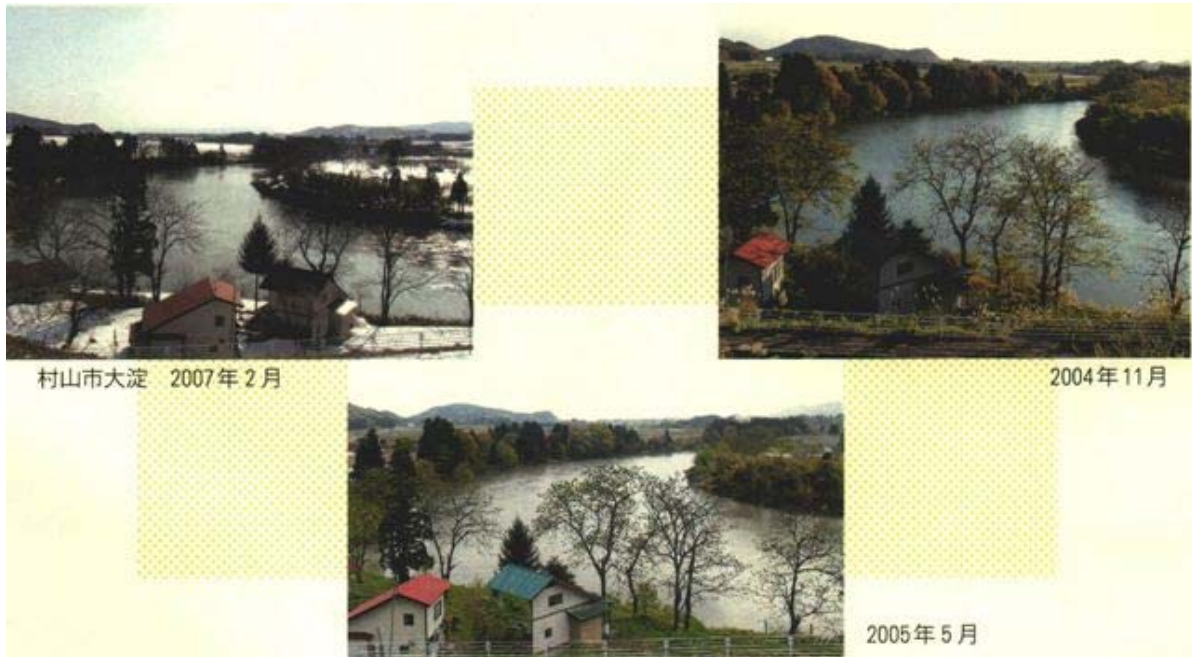
オリンパス SP-590UZ



月山山頂 2008年12月

デジタル1眼レフも魅力なのですが、その機動性や経済性を考えると、そして還暦を過ぎた体を見ると現状が自分の身の丈に合ったカメラではないかと考えています。撮った写真をパソコンにストックし、気に入った画像をプリントする。自宅で空いた時間に自前でできるということも大きな魅力だと考

えています。晴れた日の早朝には東や北そして南の空を見て、夕方には西の空を見て狙いのポイントに向かいます。休みの日はちょっと足を伸ばして内陸や隣の県に出かけることもあります。今、意識していることは何箇所か自分好みの撮影スポットを決め、季節、時間による変化などを楽しみたいということです。好みのスポットは十王峠、月山ダム対岸、湯殿山スキー場、月山湖パーキング上り線、そして村山市大淀の真下慶治記念美術館のテラスなどです。これからはしばらく通って撮り貯めたいと考えています。



撮った画像は先ず撮影日ごとにストックしますが、対象別ファイルで整理します。例えば山野草、風景、街並み、動物、箱庭(自宅の庭の草花など)、そして鳥海山、月山、ペットなどにです。そうしておくとい日付で探すよりはるかに楽に目的の画像を探せるのです。

またデジカメの魅力はマクロ撮影にも大きな力を発揮するという点です。面倒な装備なしにボタンひとつでマクロ 10 cm、スーパーマクロでは 1 cm の接写が可能です。花や昆虫の細やかな部分が再現されます。ファインダーでは気が付かなかったものがプリントに現れてきて驚かされます。花びらの中の小宇宙が色鮮やかに映し出されるのです。



動画モードも進化し、ペットの戯れる様子などかなりの画質で再現されます。ちなみに我が家のペットは現在3代目グレーのシーズーで3.5歳、テンテンと云います。カメラのシャッター音はあまり好きでないようでカメラを向けると固まってしまう。この点では動画向けなのかもしれません。

以前より気になっていたことがあります。コンパクトデジカメやデジタル1眼レフの寿命はどれくらいのものなのかということです。2000年に購入したデジカメは娘のところへ行きそこで寿命が尽きたようですが、2003年購入のものは健在です。フィルムカメラを愛機として何十年も使い続ける時代がありましたが、デジカメ時代となって、そういう概念も様変わりしたようです。せめて画像だけはうまく整理し、残してゆきたいと考える今日この頃です。

最後の話になりますが、1990年ころ発売され短期間で消えていったSONY Mavicaというスチルビデオカメラをご存知でしょうか、2インチのフロッピーディスクに50枚の静止画像と音声を録画できる

というものでした。丁度オーストリーへのスキー旅行旅行を控えた時で、愚かにも購入して嬉々として撮りまくり、自慢していました。再生は直接ビデオ端子で出力、テレビでまたはビデオテープへ録画してそれを見るというものでした。画像もビデオ信号のため良くなく、再生手段の煩雑もあり普及せず忘れ去られ、専用バッテリーも生産中止となり、再生のできないフロッピーディスクだけがさびしく机の中に残っています。インターネットで同様に再生法を質問している方がいましたが、まず無理のようでした。良い情報をご存じの方ありましたら教えて下さい。



Introduction

勤務医

No.79

荘内病院 麻酔科

渡部直人先生

鶴岡地区医師会会員の皆様、はじめまして。本年4月より荘内病院麻酔科に勤務させていただいております渡部直人と申します。妻も5月より非常勤の麻酔科医として荘内病院に勤務させていただいております。

私は鶴岡南高校を卒業した後、日本大学医学部に進学し、平成7年に卒業しました。高校時代は音楽部（合唱）に所属し、ろくに授業にも出ず、部室に入り浸っていた記憶があります。我々の時代はコンクールでも東北大会に出場するのがやっとという状況でしたので、南高が全国大会の常連になり、しかも毎年のように上位入賞という最近の活躍を耳にする度、隔世の感を抱いております。大学卒業後は駿河台日本大学病院麻酔科に所属し、大学付属病院、および関東の病院に勤務しておりましたため、気付いてみれば鶴岡での生活よりも東京での生活の方が長くなってしまいました。帰郷するにあたっては数多の方々から「なんでいまさら帰るの？」となかば呆れ顔で聞かれましたが、東京での生活は確かに便利で刺激的な面はあるものの、一生を大都会の喧騒の中で過ごすことは私には到底受け入れられず、また子供の教育を考えた場合、幼稚園や小学校からお受験が始まる東京の教育事情に違和感を覚えておりましたので、年齢40になる今年がいい機会ととらえ、約20年ぶりに鶴岡に戻ってきたという次第です。新参者を暖かく迎えてくださった荘内病院院長松原先生をはじめ病院スタッフの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

妻は埼玉生まれで浅草育ちの都会っ子です。庄内弁にはやはり苦労しているようで、先日も「患者さんの言うことがさっぱりわからない」と嘆いておりました。まさに言葉の通じない外国に来た感じなのでしょう。あまり口には出しませんが鶴岡のような田舎に来るに当たっては相当の覚悟が必要だったと思います。面と向かって話すのは少々恥ずかしいので、ここで言わせていただきます。「ついてきてくれてありがとう」。

今年で麻酔科医として15年目になりますが、年



を重ねるごとに麻酔の危険性を身にしみて感じています。恥ずかしながらいまだに麻酔を行うときは緊張しますし、手のひらにジトっと汗をかいている自分に気がつきます。臨床研修医制度が開始され、そんな危険な行為を本当に研修医にやらせて良いのか疑問に思うことがあります。麻酔科専門医が指導しながら行うわけですが、皆様ご存知のように日本では麻酔科医の絶対数が足りません。多忙のため麻酔科専門医による指導がおろそかにならぬとも限りません。そのような状況に一抹の不安を覚えるのです。しかしながら研修医を指導しつつ、安全・安心な麻酔管理を提供するのが我々の仕事。そんなジレンマを抱えながらも研修医に麻酔科の面白さを伝え、何とか麻酔科を志す人材を増やしたいと目論んでいるところで

す。麻酔科医という職種柄、医師会の先生方と直接お話する機会が少なく残念ですが、何卒ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

YBC ラジオ「朝だ！元気だ！6時半！」ラジオ出演体験記

鶴岡市立荘内病院 薬剤師
阿部 和人

「それでは皆さま、お疲れ様でした。」

荘内病院で月 1 回行われている緩和ケアスキルアップセミナー終了後、司会進行をしていた私が最後の挨拶を言い終えた後、私に満面の笑顔で近づいてきたのは土田兼史先生だった。

「阿部さんにお願ひがあるんだけど、ラジオに出てくれないかなあ」

「...私なんかで大丈夫なんでしょうか...」

「阿部さんの話を聞きたいと思っている人、たくさんいると思うんだよね」

「はあ..はい... じゃわかりました...」

「あとで連絡くると思うからよろしくね。」

土田先生の巧妙すぎる話術にまんまと乗せられてしまい、結局ラジオに出演することになってしまった私であった。

ラジオ出演は了承したもの、全く未知の世界だったため色々と考えをめぐらせていた頃、山形県医師会から出演依頼書が届き、中を開けてよく読んでみるとなんと！今まで出演されてきた方々はすべて医師ではないか...（やられた...）すぐにあの土田先生の笑顔が頭に浮かんできたのであった。

すべてアドリブという訳にもいかないと思い、ひと通り話す内容を準備していざ YBC へ。

お相手は佐伯敏光アナウンサー、以前ピヨ卵に出ていた人だ、見たことある！

少し世間話をしてすぐに本番、いきなり月曜日分がスタートした。まずまず順調、そのまま月曜日は終了。ここで（ちょっと待てよ？収録って聞いたから適当に話をして、いい所だけ編集して使うんじゃないの？これじゃ生放送と一緒にじゃないか？）と考えているうちに火曜日がスタート。噛んじゃいけない、間が空いてはいけない、話さなきゃいけないことは沢山ある、など色々考えているうちに納得できるトークが出来ないまま収録は終了してしまった。

放送初日の朝、ラジオに関しての話は特に誰からも声をかけられずひと安心。朝早くから誰もラジオなんて聞いてないよ大丈夫！と自分に言い聞かせて自分の仕事に取りかかる。

朝 9 時前に自分の病院用 PHS が鳴る。見ると外線表示、誰？「もしもし阿部です」

「健康管理センターの鈴木だけど、今日の放送良かったよ」

やはり公共電波...恐るべし...

訪問看護ステーション きずな
所 長 佐藤 めぐみ

この番組への出演のきっかけは、高橋美香子先生から、「朝だ。元気だ。6時半。と言うラジオ番組知っているでしょ。その番組に所長と石川さん二人で出てくれない。」とのお誘いがあったことでした。二人で、びっくりしながら、「えー、ちょっと。」とか言いつつも、「放送局に行けるなんてめったにあることでないし。」と即決。

それから、私が一番に考えたことは、「なんの曲を選ぼうか。」と言うこと。何を話そうかと言うことは、曲が決まってからじっくりと考え、収録の5月30日を迎えました。当日は、午後3時半から打ち合わせを行いました。アナウンサー・ディレクターの方と話をしているうちに緊張感もほぐれてくるようでした。「緩和医療とは、訪問看護での地域連携とは」についてお話をしました。15分のうち、5分くらいは、「曲の紹介、出身地、どうして看護師になったのか、座右の銘など」その人となりについてお話タイムがありました。生まれが大山なので、「天領や尾浦魂」の話や、大好きだったおばあちゃんのお話をしました。放送された初日の、朝きずなの事務所に、70代の女性から電話がありました。「番組を聞いた。外来に通院してても訪問看護に来てくれるの？1年間気持ちすがすがしく辛かったけど、そんな時に看護師さんから来てもらい話を聞いてもらいたい。」と言うお話でした。また、山形市のステーションの訪問看護師さんからは、「ラジオを聞いたよ。そうだ。そうだ。もっと言って、と思いながら聞いたよ。よかつよ。」と声をかけられました。今回庄内プロジェクトに関わったことより、ラジオ番組出演の機会をいただき、多くの方から、「ラジオを聞いたよ。」と声をかけられました。ラジオ放送に出演の機会をいただいたことに感謝しています。ありがとうございます。

訪問看護ステーション きずな
石 川 知 子

5月始め、一緒にプロジェクトに携わっている鶴岡協立病院、高橋牧郎・美香子両医師よりラジオ収録のお話を頂きました。突然の話で一人では自信もなく、所長と一緒にいたら・・・との事で返事をさせて頂きました。暫くすると話のテーマや曲、人となりのフォーマット用紙がFAXされ、所長と相談し内容や割り当てを決めました。私達の2週間前から庄内プロジェクト・緩和ケアについて庄内病院の和泉先生や薬剤師の阿部さんが出演予定であった為、自分達は訪問看護師として普段行っている事を話しようと決め、いざ！収録へ伺いました。当日は考えた文章を基に話そうと考えていましたが、収録本番になると緊張してまとめた文章も上手く話出来ず半分落ち込みながら進んでいきました。しかし、さすがプロのアナウンサー！話したいことを上手く引き出してくれ何とか終わることが出来ました。放送後、ラジオの反響のすごさに驚きながらこれからも日々地域に寄り添いながら看護活動していきたいと思います。

新健診センター—建設準備室便り No7

7月8日に第13回建設委員会を開催し、基本設計について受診者の動線を再考慮した結果の変更点や、既存井戸の揚水調査実施等について協議をしました。既存井戸の調査結果によっては消雪や生活雑水にも利用できることもあり、早急に調査を実施することで承認されました。8月3日には第14回建設委員会を開催しました。その中で協議、決定された内容は、①エコボイド案と光庭案の冷暖房負荷等の比較検討を行い、省エネルギー性が高いなどの理由からエコボイド案を採用すること。②外断熱と内断熱についての比較検討を行い、24時間利用する施設ではないことやコスト面や導入効果を考慮した結果、屋根を外断熱とし外壁は内断熱とすること。③既存井戸利用について、揚水調査の結果、水量は680ℓ/分（最大水量1500ℓ/分）と充分であったが、水質では鉄分がかなり多いことから、消雪利用しか出来ないということで、既存井戸で現・新センター両方の駐車場の消雪方法を設計業者から提案してもらうこと。以上3点について実施設計に盛り込むことにしました。その後、設計業者のインテリア部デザイナーから新センターのデザインにかかる基本コンセプトについて説明をうけ、各室で使用する床材の種別の確認を行いました。翌日も職員と設計業者とで、各室の使い勝手やデザインについて検討を行い、結果をまとめて提案してもらう事にしました。

現健康管理センター改築検討委員会（職員）を2回開催し、在宅サービスセンター、ケアプランセンターふきのとう、地域包括支援センターつくし、産業保健センターを現健康管理センター内にどのように配置していくのか案を持ち寄り、またその際の要望を聞き取りし、おおよその案を建設委員会に提案しました。今後は各室の間仕切りやレイアウトについて具体的に検討を行っていく予定です。

表 紙

「 六 地 蔵 」

林 順 一

雪も解けた小春日和。石段を登っている途中で出合った地蔵さまたち。色彩やかな袈裟をまとって、何やら楽しげな雰囲気。

地蔵。本式には地蔵菩薩。元はインドの大地の神で、財宝や安産を司る神で、右手に錫杖をにぎり、左手に宝珠を携えていて、悩み苦しむ者を見たり聞いたりすると、即、助けに行くと云う。

六地蔵は六つの世情を担当しているの。それぞれの地蔵さまの分担で「地獄」は自らの悪業によって受ける苦しみの状態。「餓鬼」は足りることを知らず欲求不満の状態。「畜生」は、おろかで互いに他を食いあい、真の生命の尊さを知らない状態。「修羅」は、戦いや争いの悲しい状態。「人間」は、苦楽と相伴ばして、自他ともに無関心である状態。「天道」は、幸せの絶頂にあって、それにおぼれて有頂天になっている状態を言うのである。地蔵さまたちはそれらの状態を、変わって引き受けてくださる。

～ 編 集 後 記 ～

小 野 俊 孝

衆議院が解散され、4年振りの総選挙が実施されることになりました。政権選択が焦点と騒がれ、注目度の高い選挙になるそうです。

医療・社会保障分野でのここ数年はどんな年だったのでしょうか、思いつくままに。よく訳の解らない「5分ルール」など診療報酬の切り下げが繰り返し行われ、評判の悪い後期高齢者（長寿？）医療制度や障害者自立支援法が創設されました。産科・小児科・外科をはじめとした地方病院の医師不足と経営難のため縮小・閉鎖が相次ぎ、救急医療体制の不備が露呈し、削減されていた大学医学部定員の拡大が行われています。

年金問題は未解決のまま、社会保険庁という役所は無くなるようです。

2009年7月の日本医師会雑誌は「世界標準にはるかに及ばないわが国の予防接種体制」の特集でした。すでに確立されたワクチンが国内では受けられず病気に罹患し、重症化や後遺症が残ることがあります。経済的な医療費の観点からもワクチンでの予防が優れていることが明らかにされているのに。一方ワクチン生産体制が十分育成されていないわが国では、新型インフルエンザワクチンは供給不足が懸念され、輸入が検討されているとか。医療体制が整わない後進国で、ワクチンの必要性が高いのに。

これまで国内の臓器移植は進まず、大きな重荷と犠牲、莫大な費用を個人に背負わせたままでした。2009年WHOが「臓器移植は原則として自国内で移植提供されるべき」との方針を示し、わが国は十分納得できる議論を尽くさないまま？（改定）臓器移植法案が成立しました。

話題の多かったところでは、紆余曲折のあった定額給付金が配布されました。また、電化製品や自動車の「エコ」と名づけた大量消費、買い替え（廃棄）が喧伝されています。

自動車事故による死亡者は年々減少し、今年上期は近来にない最少ペースとか。一方、自殺者は毎年3万人を超え、今年上期はさらに最悪のペースで増加しているとか。

今後の政治の方向性が決まる大切な選挙です、大いに関心をもって臨みたいと思います。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・小野俊孝・渡部隆二

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)